

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 30 日現在

機関番号：14301

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2014～2016

課題番号：26570018

研究課題名(和文) 男子・男性対象のジェンダー政策をめぐる先進事例の比較研究

研究課題名(英文) Comparative studies on the advanced examples of gender policies for men & boys.

研究代表者

伊藤 公雄 (Ito, Kimio)

京都大学・文学研究科・教授

研究者番号：00159865

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,700,000円

研究成果の概要(和文)：男性・男子対象のジェンダー政策についての先進事例をめぐってデータ収集とインタビュー調査を実施した。オーストラリアでは、男性の非暴力に向けたNGOを軸に、男性・男子への啓発方法について調査した。スウェーデンでは、複数の男性危機センターを訪問し、男性の悩みへの相談およびDV加害者男性の非暴力トレーニングの実態について調査した。ドイツでは、主に父親支援の動向について聞き取りを実施し、カナダから男性非暴力運動のリーダーのカウフマン氏を招いて講演と研究交流も実施した。研究成果については、スウェーデンのヨーテボリ大学での研究集会や日本社会学会大会で報告を行った。アウトリーチとして岩波ブックレットを出版。

研究成果の概要(英文)：We researched on the advanced examples of gender policies for men & boys, interviewing with specialist in this field and analyzing the data collected. In Australia we investigating into the method for educating men and boys, researching on NGO for Anti-violence against women. In Sweden we visited some centers for the crisis of men, studying how to advice on men's problems and to train for men who were battlers against women. In Germany we researched on Fathers Center in Berlin. In 2016 we invited one of leaders of the movement of Anti-violence against women, Dr. M. Kaufman, from Canada and had a research meetings and his public lectures. We make public our research outcomes in the international conference at Gothenburg University in Sweden and the annual conference of Japan Sociological Society in Kyushu University. And a part of our research outcomes was published as Iwanami Booklet in 2015.

研究分野：社会学、ジェンダー論

キーワード：ジェンダー政策 男性学・男性性研究 DV 男子問題

1. 研究開始当初の背景

1990年代以後日本政府は国際社会から遅れをとりつつ、やっと本格的なジェンダー政策の取組みを開始した。しかし、その成果は必ずしも十分とはいえない。いまだ男性主導の仕組みが根強い現代日本社会において、男性たちの多くは、ジェンダー問題を自分たちの問題、さらに日本社会の未来の問題としてとらえきれないことが、日本のジェンダー政策の停滞の背景には存在している。他方で、女性の意識変革や社会参加の拡大のなかで、男性のかかえる諸課題も顕在化しつつある。こうした状況の下で、日本でも男子・男性を対象にしたジェンダー政策が求められている。

2. 研究の目的

本研究は、近年EUや国連を軸に進められつつある男性・男子対象のジェンダー政策をめぐって、先進的に取り組んできたヨーロッパおよびオセアニア諸国の政策、理念、課題等について調査研究を実施し、これまでほとんど取組みのなかった男子・男性対象のジェンダー政策の日本社会における政策展開の可能性を、比較社会論・ジェンダー論(特に男性学・男性性研究)の視点から考察することを目的とする。

3. 研究の方法

男性・男子を対象としたジェンダー政策が進んでいる複数の社会を対象に、それらの社会がもつ固有の文化や政治構造にも配慮しつつ、男性・男子を対象にしたジェンダー政策の登場の実態やそれが必要とされた理由、さらに現在かかえている諸課題に目配りしつつ、現地調査を実施する。具体的には、オーストラリアを軸としたオセアニア地域、ならびにスウェーデンとドイツを中心としたヨーロッパ地域において、それぞれの地域におけるジェンダーをめぐる社会的実情と男性学・男性性研究の発展状況をふまえて、男子・男性対象のジェンダー政策の歴史・現状・課題をデータ収集とともに、現地でのインタビュー調査を実施することで明らかにする。

4. 研究成果

(1) オーストラリアにおける調査を通じて国際的にもっとも成功しているとされるホワイトリボンキャンペーン・オーストラリアの実態について、現地の社会学研究者(マイケル・フラッドやマーク・マクレランドら)の協力もえつつ、インタビュー調査を実施した。男性・男子を対象にしたジェンダーに配慮しつつ行われるキャンペーンの手法や、NPO運営の実態について多くの知見をえた。

(2) 1980年代後半から男性対象のジェンダー政策を開始したヨーテボリの男性危機センターや、その後次々誕生した危機センター(ストックホルムの危機センターなど)への聞き取り調査、さらに、男性危機センターの

全国組織委員長らのインタビューを通じて、男性の悩みの実態や特にDV加害者への非暴力トレーニングについて、多くの情報をえた。特に、ジェンダー平等の深化は、離婚の増加をはじめ、もうひとつのジェンダーである男性たちをすくなく混乱させることをあらかじめ予想し、それに対応するため準備されたスウェーデン危機センターの果たした機能、特にDV加害者へのきめ細かい対応は、日本社会における政策立案にとって、多くのヒントを与えてくれるはずである。

(3) 男性の育児休業制度が日本よりもはるかに遅れ21世紀初頭にやっと開始されたにもかかわらず、今や半数近い父親が育児休業を取得するようになっているドイツの実情について、ベルリンの父親センターなどを対象に調査研究を実施した。興味深いのは、他の国と同様、ドイツでも、男性の視線に一定配慮しつつ(たとえば、建物のインテリアは男性にとって好印象を与えるように配慮するなど)、男性を積極的にまきこむ方法を、自覚的にとっている点である。男性の生き方を「決めつける」ことなく、男性のかかえている現状の意識に配慮しつつ、男性を変革するというソフトな戦略が、男性を変えつつあることが明らかになった。

(4) カナダのマイケル・カウフマンを招いて行った共同研究会および講演会では、多くの参加者をえるとともに、ケアする男性、男性の非暴力運動等での今後のネットワーク形成に重要な情報をえることができた。

(5) 今後は、以上の研究成果をもとに、さらに研究の範囲を拡大し、男性・男子を対象としたジェンダー政策がかならずしも十分に展開されていない社会も含めて調査研究を行い、日本における男性・男子を対象としたジェンダー政策の充実をはかりたい。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計14件)

伊藤公雄、「男女共同参画の視点からみた日本の学術・教育-ジェンダー統計の公開の拡充に向けて」、『学術の動向』10月号、査読無、2016、20-25

Taga, Futoshi, EU Countries 'Implications for Promoting Fathers Participation in Parenting in Japan', Japanese Journal of Family Sociology, 28(2), 査読無、2016, 207-213.

天童睦子・多賀太「『家族と教育』の研究動向と課題-家庭教育・戦略・ペアレントクラシー」『家族社会学研究』第28巻第2号、査読無、2016、224-233.

大束真生・木脇奈智子・新矢昌昭・富川拓、「日本における男女共同参画社会の展開(2)-A市における意識調査の分析から-」、『佛教大学社会学部論

集』(63)、査読無、2016、37-54
大束貢生・木脇奈智子・新矢昌昭・富川拓、「日本における男女共同参画社会の展開(3)-A市における事業所調査の分析から-」、『佛教大学社会学部論集』(64)、査読無、2017、67-82
大山治彦、「スウェーデンにおける同性間の結婚-わが国における制度設計のために-」、『日本ジェンダー研究』第19号、査読有、2016、45-61
大山治彦、スウェーデン・レポート「スウェーデンにおける同性間の結婚(1)」、『季刊 セクシュアリティ』76号、査読無、2016、158-161
大山治彦、オランダ・レポート「ホモモノメント」、『季刊 セクシュアリティ』78号、査読無、2016、120-124
大束貢生、「女性活躍推進政策の展開課題」、『佛教大学総合研究所紀要』23、査読無、2016、31-45
大束貢生・木脇那智子・新矢昌昭・富川拓、「日本における男女共同参画社会の展開(1)-A市における女性の働きやすさ調査から-」、『佛教大学社会学部論集』(61)、査読無、2015年9月1日、77-85
伊藤公雄、「アントニオ・グラムシ 人と思想:現代社会理論とのかかわり」、『哲学研究』597、査読無、23-47、2014
伊藤公雄、「失われた『身体性』/虚構のなかで増幅する『攻撃性』:戦後日本のサブカルチャーと『暴力』の現在」、『インパクション』195、査読無、2014、52-63頁
多賀太「男子研究の方法論的展開 日本の教育社会学を中心に」、『関西大学文学論集』第64巻第2号、査読無、2014、37-58頁
多賀太「近代日本における家庭教育の担い手に関する一考察 「私の履歴書 経済人」からの抽出事例を用いて」、『関西大学文学論集』第64巻第3号、査読無、2014、27-52頁

[学会発表](計22件)

ITO,K., "Masculinization" of "Deprivation" ~Japanese Post-war Family-gender Policies and Men" in Changing Care Diamonds In Europe And Asia:Asianization of Europeanization of Asia, Final conference of the Ile-de-France 2016 Blaise Pascal chair at the Ecole des Hautes Etudes en Sciences Sociales 22-23.09.2016, France,招待講演
ITO,K.,Boys' "Military Culture" in the Modern & Contemporary Japan-- Changing Image of "Violence" and "Death" in 2016 Intellectual Exchange Program between Japan and Europe in Alsace Japanese Study Seminar : Women and Men. Centre European

d'Etudes Japonaises d'Alsace, September 26-27, 2016,France,招待講演

ITO,K., "Image of "war" in Japanese Modern Boys' Culture". Masculinity studies in combination with Allmänna seminariet, 24 August 2016, University of Gothenburg,Sweden.招待講演

ITO,K., "Image of "Enemy" in Japanese Boys' Culture" Bristol-Kyoto Workshop : Deterritorialising Visual Theory and Culture: Anglo-Japanese Encounters School of Geography, University of Bristol,England,26th - 27th July 2016.招待講演

TAGA, Futoshi, " Father as an Educator: Family strategy for the education of children in Japan, " Seminar on Masculinity Studies, University of Gothenburg, Sweden, August 24, 2016.

多賀太、「『父親の育児参加』の社会学:課題と展望」、『日本家族社会学会第26回大会テーマセッション指定討論、2016年9月10日、早稲田大学

多賀太、「変容する『ジェンダーと教育』のポリティクス」、『日本教育社会学会第68回大会、2016年9月17日、名古屋大学

大山治彦・大束貢生・多賀太・伊藤公雄「スウェーデンにおける『男性のための危機センター』による男性支援 DV対策における男性へのアプローチ」、『第89回日本社会学会大会、2016年10月8日、九州大学

大山治彦、「男性のための危機センターについて-スウェーデンの男性政策・DV対策-」、『関西家族社会学研究会、2016年4月23日、甲南大学

OYAMA,H., "Menzuribu": A history of Men's movement in Japan 1970's-1990's, Extra seminar on Masculinity studies in combination with Allmänna seminariet, Department of Sociology and Work Science, Faculty of Social Sciences, University of Gathenburg, Sweden, 24 August, 2016. 招待講演

ITO,Kimio, Changing Intimate & Public Spheres: Gender,Aging and Care, Bristol- Heidelberg- Kyoto Symposium: Gender in Popular Culture, Intimacy in the Public Spheres, Bristol University England, Nov.5,2015.

TAGA, Futoshi, " Discussion: What can

Japan learn from experiences in welfare-advanced countries to achieve gender equality in parenting?," International Session: Work-Family Balance of Families with Small Children: How to Achieve Gender Equality in Parenting, 25th Annual Meeting of the Japan Society of Family Sociology, Otomon Gakuin University, September 5, 2015

多賀太「父親の子育て参加と親密性の変容 - 男性学の視点から」, 日本心理学会大会第79回大会 公募シンポジウム102「ジェンダーとセクシュアリティ研究の多様性2: ケアの諸相を契機として」, 名古屋国際会議場、2015年9月24日

多賀太、日本子ども社会学会2015年度大会テーマセッション2「男子問題の時代か? 子どもとジェンダーをめぐる状況と課題」企画・ファシリテーター、愛知教育大学、2014年6月27日

大山治彦、平成27年度「男女が共に活躍するまちづくり」講座、「スウェーデンの”男性センター”とは... - 男性政策・DV対策の視察から考える - 」高松市男女共同参画センター、2015年12月18日

Futoshi Taga, "How Happy Are Salarymen: Continuity and Change in the Meaning of Well-being for Japanese Middle-class Men", International Conference: Deciphering the Social DNA of Happiness: Life Course Perspectives from Japan, 24-26 April 2014, University of Vienna, Austria
Futoshi Taga, "Change and Continuity in the Definition of Happiness for Japanese Middle-class Men" Japanese and Australian Masculinities Symposium, The Centre for Research on Men and Masculinities, University of Wollongong, Sydney Business School (Faculty of Business, University of Wollongong), Australia, 17 March, 2015

多賀太「子ども研究における多元的「子ども性」と大人への異議申し立て」日本子ども社会学会第21回大会公開シンポジウム「子どもの昔と今 子ども研究の饗宴」, 敬愛大学、2014年6月28日

Futoshi Taga, "Westernization or Hybridization?: Restructuring Japanese Hegemonic Masculinity in Globalization" The XVIII ISA World Congress of Sociology, International Sociological Association, Pacifico Yokohama, Japan, 13-19 July 2014

多賀太・筒井淳也「ライフイベントによる性役割態度の変化」日本家族社会学会第24回大会テーマセッション「ライフイベントと家族」NFRJ-08Panelによる分析」, 東京女子大学、2014年9月7日

⑳ 多賀太「近代日本における家庭教育の担い手に関する考察 経済エリートの自叙伝を資料として」日本教育社会学会第66回大会 - 3部会「教育の歴史社会学(1)」, 愛媛大学・松山大学2014年9月13日

㉑ 多賀太「男性学の視点とサラリーマン・ヘゲモニーのゆくえ」第87回日本社会学会大会シンポジウム「変容する企業中心社会の男性学的解剖」, 神戸大学、2014年11月23日

〔図書〕(計 7件)

伊藤公雄・山中浩司編、『とまどう男たち 生き方編』, 大阪大学出版会、280頁、2016
多賀太、『男子問題の時代? 錯綜するジェンダーと教育のポリティクス』学文社、240頁、2016

TAGA, Futoshi, "Die Rekonstruktion japanischer hegemonialer Männlichkeit in einem sich wandelnden Arbeitsumfeld," Diana Lengersdorf und Michael Meuser (Hrsg.), Männlichkeiten und der Strukturwandel von Erwerbsarbeit in globalisierten Gesellschaften: Diagnosen und Perspektiven, Beltz Juventa, S. ,pp198,137-158 (原著英文), 2016

多賀太・筒井淳也、「ライフイベントが性役割態度に与える影響」筒井淳也・水落正明・保田時男編『パネルデータの調査と分析・入門』ナカニシヤ出版、152頁、105-117頁、2016

伊藤公雄、「メディア社会・消費社会とポピュラーカルチャー 戦争と暴力のイメージを中心に」大津透、桜井英治、藤井譲治他編、岩波講座『日本歴史 第19巻・近現代5』岩波書店、328頁、287-314頁、2015

多賀太・伊藤公雄・安藤哲也、『男性の非暴力宣言』岩波書店、80頁、2015

伊藤公雄・牟田和恵(編)『ジェンダーで学ぶ社会学(全訂新版)』世界思想社、264頁、2015

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

伊藤 公雄 (ITO, Kimio)
京都大学・大学院文学研究科・教授
研究者番号：00159865

(2) 研究分担者

大束 貢生 (OTSUKA, Takao)
佛教大学・社会学部・准教授
研究者番号：20351306

多賀 太 (TAGA, Futoshi)
関西大学・文学部・教授
研究者番号：70284461

大山 治彦 (OYAMA, Haruhiko)
四国学院大学・社会福祉学部・教授
研究者番号：70321239

(3) 連携研究者

(4) 研究協力者

()